

酒田港中長期構想(素案)



平成30年12月19日
山形県

目次

はじめに 酒田港中長期構想の検討の進め方	2
第1章 酒田港を取り巻く環境の変化と要請・課題	6
第2章 酒田港の将来像	8
第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策	11
第4章 中長期的な空間利用のゾーニング	27

はじめに

酒田港中長期構想の検討の進め方

2

はじめに 酒田港中長期構想の検討の進め方

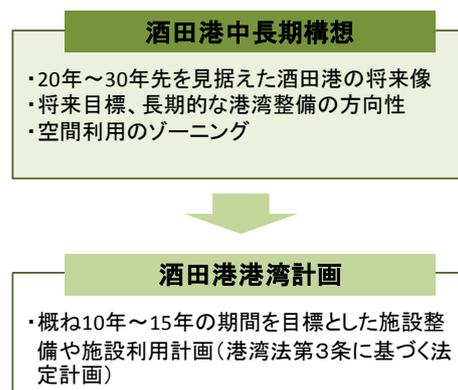
(1) 背景

■ 背景

- 酒田港は、山形県唯一の重要港湾であり、北前船交易の時代から賑わった歴史ある港で、山形県の経済・社会の発展とともに成長してきた。
- 酒田港の整備計画である港湾計画は、平成30年代前半を目標として平成18年に改訂している。この間、人口減少、世界経済のグローバル化、エネルギーの需給動向、外航クルーズ船の急増など、酒田港を取り巻く環境が大きく変化している。さらに、平成23年の東日本大震災を経て、防災対策も急務となっている。
- これらの環境変化に対応するため、港湾計画の改訂に先立ち、長期的・広域的な視点に立った将来像を検討していく必要がある。

■ 酒田港中長期構想検討委員会

- 酒田港の将来像の検討に関し、学識経験者を中心とした専門的な意見及び地元関係者、港湾関係者など地域の多様な意見を反映するため酒田港中長期構想検討委員会を設置する。

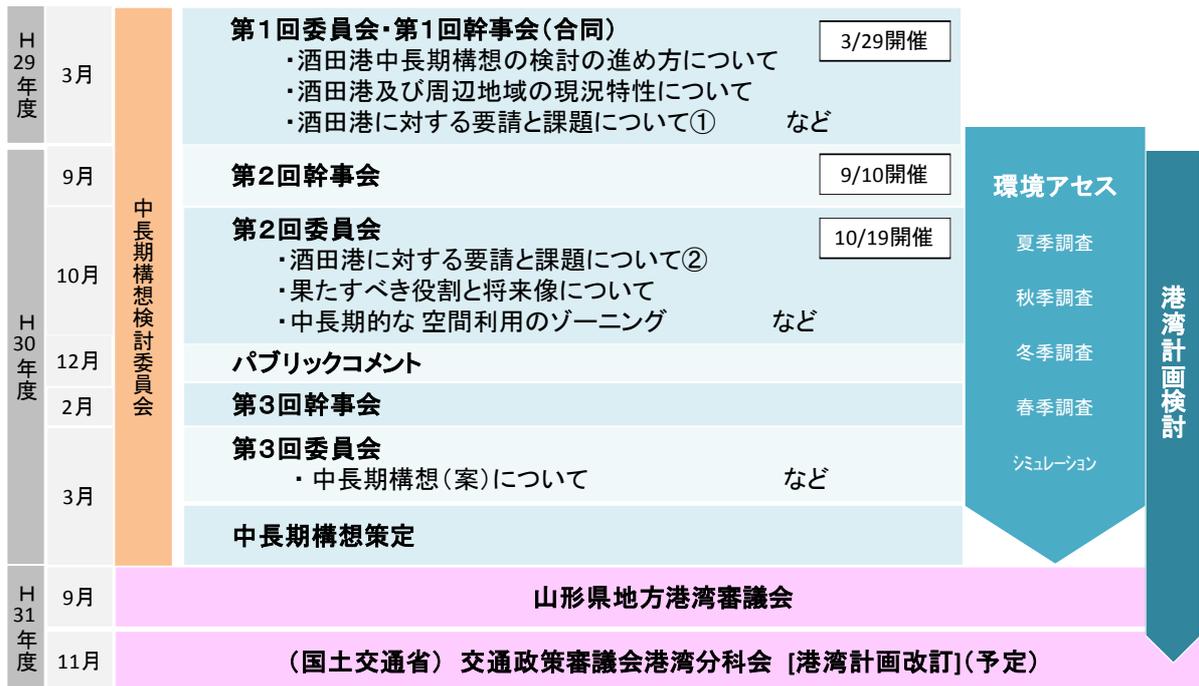


3

はじめに 酒田港中長期構想の検討の進め方

(2) 検討の進め方

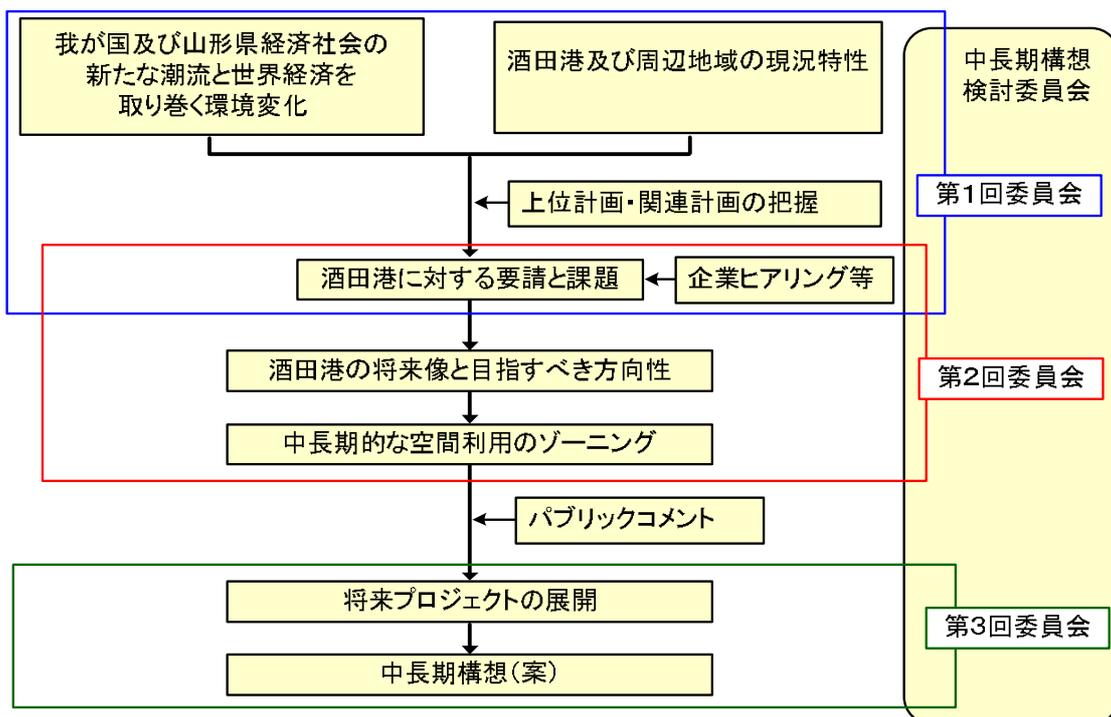
検討スケジュール



4

はじめに 酒田港中長期構想の検討の進め方

(3) 検討フロー



5

第1章

酒田港を取り巻く環境の変化と要請・課題

第1章 酒田港を取り巻く環境の変化と要請・課題



第2章

酒田港の将来像

8

第2章 酒田港の将来像

酒田の特性

交易都市

- ・最上川舟運によって運ばれる米、紅花の移出拠点として繁栄
- ・北前船交易の寄港地として京文化が酒田へ移入
- ・交易により「燈屋」、「本間家」などの豪商が誕生

公益の精神

- ・本間家をはじめとした豪商による公益投資
(公共事業、財政再建支援、慈善事業、救済事業、育英事業等)
- ・交易で得た利益を公益事業に拠出、地域に還元

酒田市の各計画のテーマ

酒田市総合計画

～めざすまちの姿を表す合言葉～
賑わいも暮らしやすさも
共に創る公益のまち酒田

※延べ約1400人の市民ワークショップを開催し策定

酒田市中長期観光戦略 「新酒田物語」

<オリジナルストーリー>
KOEKI(交易と公益)のまち・酒田
～港町文化とおもてなしのまち・酒田～

→ 「公益」の精神は地域の誇りとして根付いている

9

酒田港中長期構想 ～北前酒田湊のKOEKI(交易&公益)好循環～

<酒田港の将来像>

酒田に根付いてきた公益の精神は、人を集め、物を動かし、交易を広げるとい
う好循環を生み出し、山形の繁栄の礎となっており、現在も物流の拡大や観光客
の増加などに繋がっている。酒田港はこの精神を引継ぎ将来にわたり好循環を
持続し、対岸諸国さらにはASEAN諸国との交流拡大の取組みを通じて新たな好
循環を生み出し、国内はもとより国際社会に貢献する『国際公益拠点港』を目指
す。

10

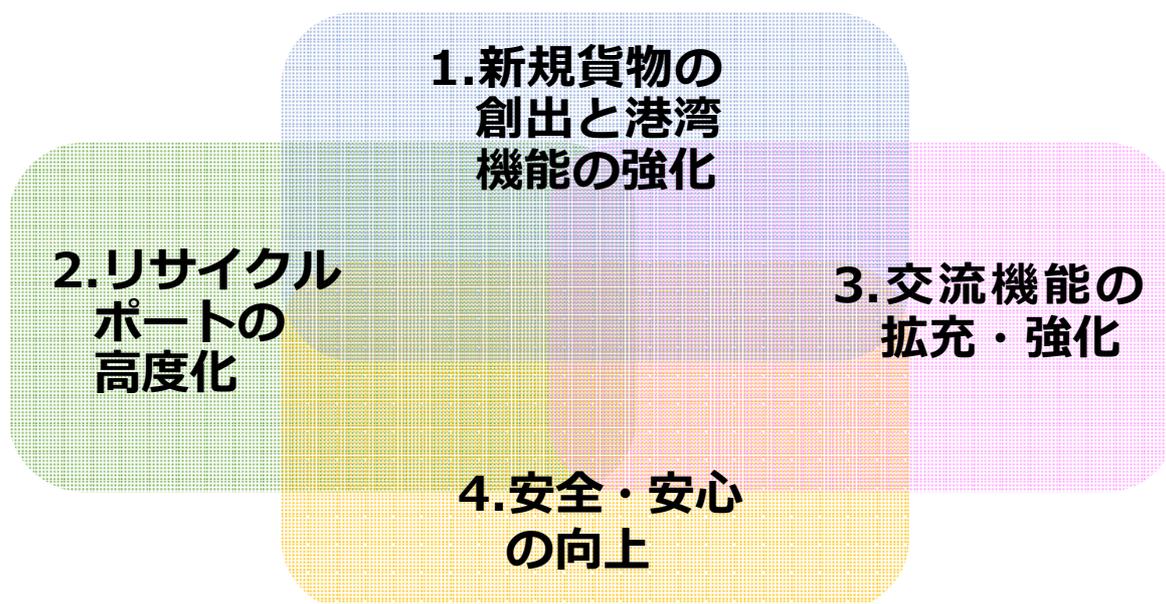
第3章

酒田港の目指すべき方向性と施策

11

1. 目指すべき方向性

将来像を実現するために以下の4つの方向性を設定する。



2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性に対応した施策は次のとおりである。

目指すべき方向性	施策
1 <u>新規貨物の創出と港湾機能の強化</u>	1-1: 国際ターミナルの機能拡充 1-2: 岸壁利用の効率化 1-3: 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成 1-4: 風力発電の物流基地としての活用
2 <u>リサイクルポートの高度化</u>	2-1: 鉄スクラップ資源の輸出の効率化 2-2: 産業副産物の有効活用 2-3: 災害廃棄物の広域処理への対応
3 <u>交流機能の拡充・強化</u>	3-1: 湊まちの賑わいの創出 3-2: クルーズ船誘致による賑わいの拡大 3-3: 学びの場としての港の活用
4 <u>安全・安心の向上</u>	4-1: 適切な港湾機能の確保による安全性の向上 4-2: 津波防災地域づくりの推進 4-3: 防災拠点の強靱化

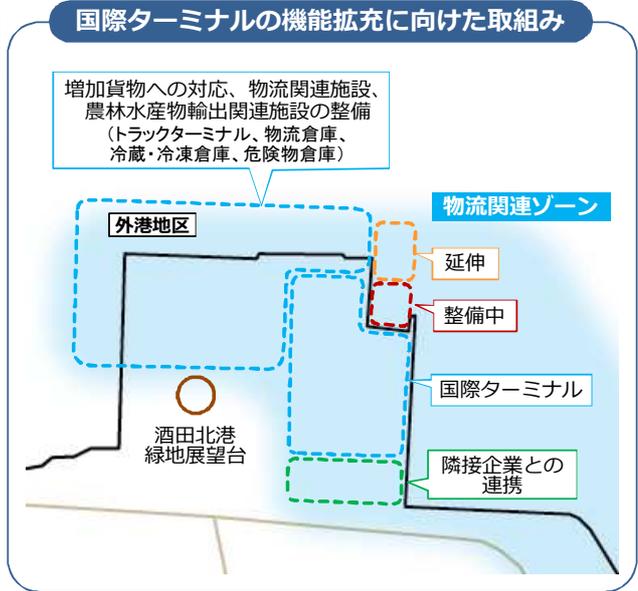
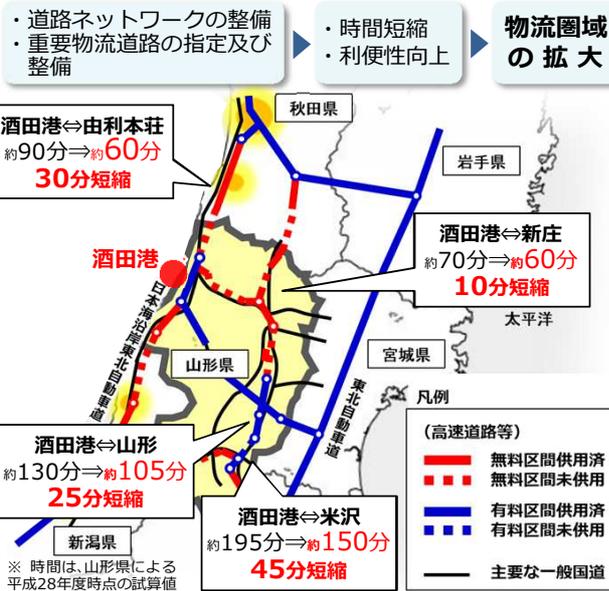
第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-1: 新規貨物の創出と港湾機能の強化

施策1-1: 国際ターミナルの機能拡充

道路整備の進展による物流圏域の拡大を見据えながら、増加するコンテナ貨物や倉庫需要などに対応し、官民一体となってターミナル機能の拡充を図る。



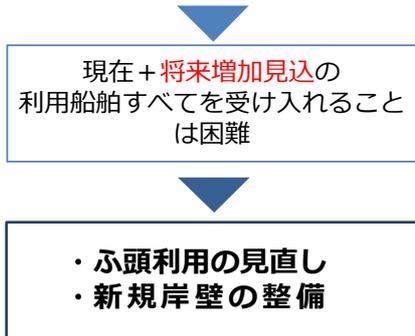
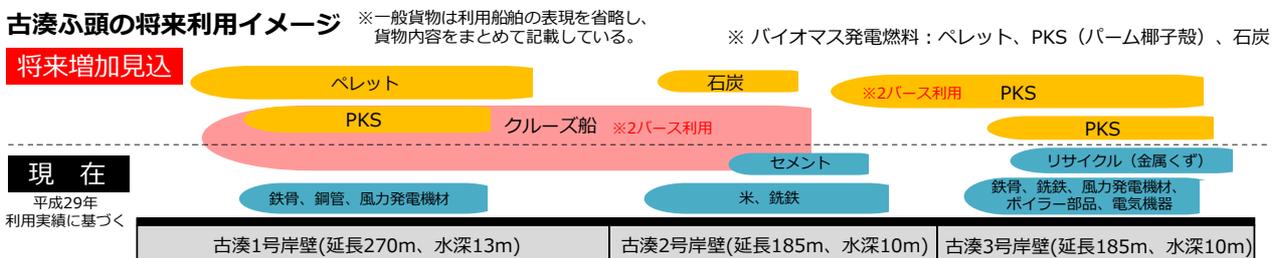
第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-1: 新規貨物の創出と港湾機能の強化

施策1-2: 岸壁利用の効率化

クルーズ船の寄港やバルク貨物（バイオマス発電燃料）の増加に対応したふ頭利用の見直しや新規岸壁の整備により、岸壁利用の効率化を図る。



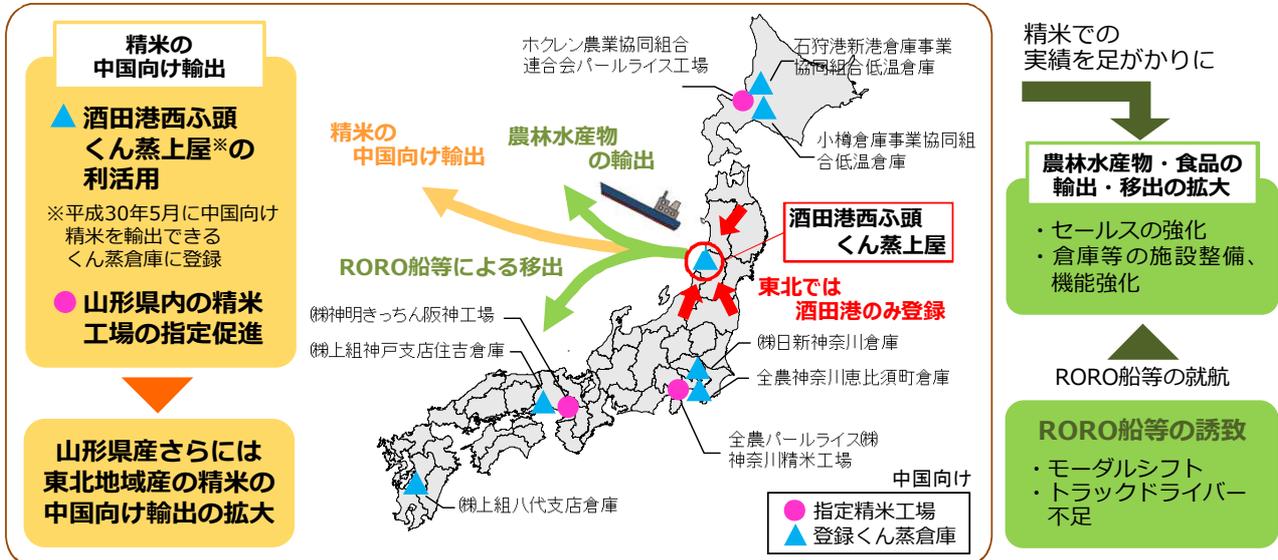
第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性－1： 新規貨物の創出と港湾機能の強化

施策1－3： 農林水産物・食品の輸移出拠点の形成

農林水産物・食品の海上輸送に必要な施設整備やRORO船等の誘致により、山形県・近隣県の農林水産物・食品の輸移出の拠点化を目指す。



※RORO船：貨物を積んだトラックやシャーシ(荷台)ごと輸送する船舶のこと。Roll-on Roll-off shipの略。

第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性－1： 新規貨物の創出と港湾機能の強化

施策1－4： 風力発電の物流基地としての活用

風力発電施設の部材の荷揚げ、組立て及びメンテナンスが可能な港として、岸壁の強化やふ頭用地の確保などにより、風力発電の物流基地の形成を目指す。

洋上風力 酒田港近隣に発電の適地があり、導入可能性について検討中

陸上風力 新設、更新の需要あり

風力発電部材の荷揚げ、組立て、メンテナンスの拠点化



第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-2： リサイクルポートの高度化

施策2-1： 鉄スクラップ資源の輸出の効率化

鉄スクラップ輸出先の遠隔化・多様化に対応するため、日本海側のリサイクルポート間で連携し、鉄スクラップの効率的な輸出を目指す。



輸出国の遠隔化への対応

リサイクルポート間の連携

- ・国内地域別のスクラップの発生見込み、集荷能力等の分析、情報共有
- ・海外の鋼材・スクラップ需要の情報共有

必要に応じた整備

- ・大型船舶が接岸可能岸壁
- ・大規模な集積ヤード

貨物の集約化、船舶の大型化による
輸送効率の向上

第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-2： リサイクルポートの高度化

施策2-2： 産業副産物の有効活用

背後圏域で発生する産業副産物等について、環境保全につながる活動や新たな再資源化への取組みを促進する。

酒田港におけるリサイクルポートとしての新たな取組みの可能性の事例

①フライアッシュ（灰）等利用製品の生産拡大

フライアッシュは、主にセメントの混和材やFRC砕石（再生砕石）として活用されている。

さらなる活用として、フライアッシュ利用製品を藻場再生のためのブロックとして設置する取組みが進んでおり、ブルーカーボン生態系の活用によるCO₂吸収源対策として生産拡大が見込まれる。

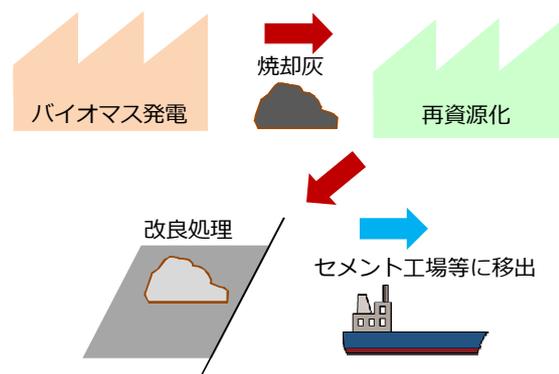


大浜海岸での設置状況
(資料：酒田FRC有限責任事業組合)



②バイオマス発電焼却灰の活用

バイオマス発電で発生した焼却灰について、再資源化の取組みにより、移出等を目指す。



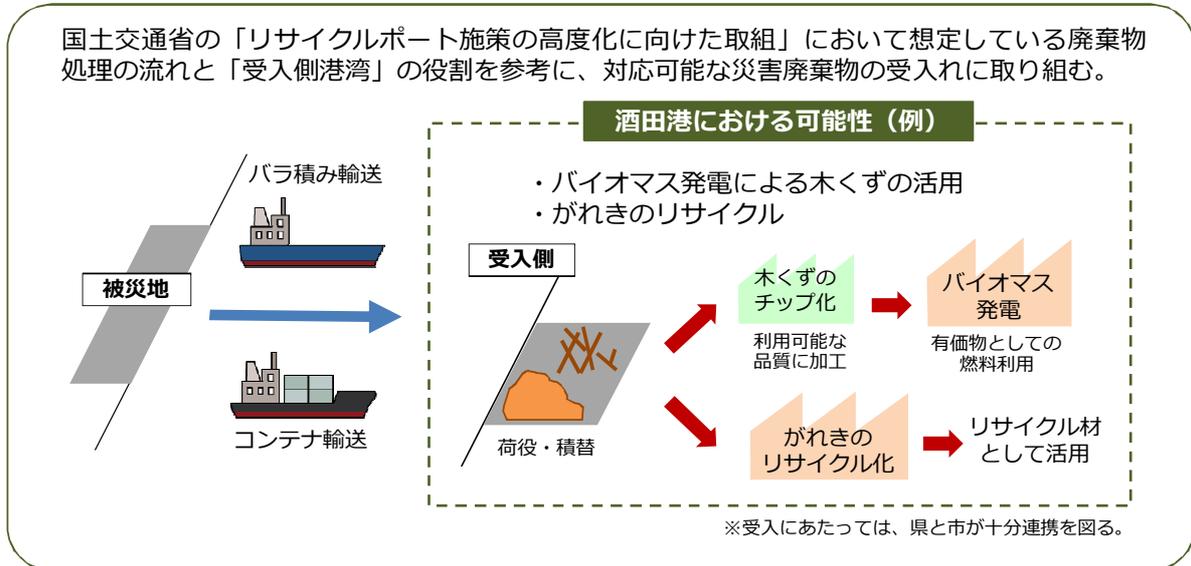
第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-2： リサイクルポートの高度化

施策2-3： 災害廃棄物の広域処理への対応

リサイクル産業が集積している酒田港の特徴を活かし、災害廃棄物の広域処理の要請に対応できる港を目指す。



第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-3： 交流機能の拡充・強化

施策3-1： 湊まちの賑わいの創出

港周辺の既存施設の利活用、漁業の振興、クルーズ拠点の整備などにより、新たな賑わいエリアの創出・交流人口の拡大を図る。



第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-4： 安全・安心の向上

施策4-1： 適切な港湾機能の確保による安全性の向上

防波堤の整備推進や航路、泊地の水深確保等の維持管理により、荷役や船舶航行の安全性の向上を図る。

防波堤現計画



防波堤配置検討(案)



配慮事項

- ・ 船舶の出入り
- ・ 最上川の流下土砂
- ・ 港内静穏度の確保



第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-4： 安全・安心の向上

施策4-2： 津波防災地域づくりの推進

「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく警戒避難体制の整備を推進し、津波に対する安全・安心の向上を図る。



第3章 酒田港の目指すべき方向性と施策

2. 各方向性への対応と施策

目指すべき方向性-4： 安全・安心の向上

施策4-3： 防災拠点の強靱化

耐震強化岸壁のさらなる整備や港湾BCPの強化により、災害時における緊急物資の輸送拠点を強靱化するとともに、近隣港が被災した場合のバックアップの役割を担う。

【耐震強化岸壁を利用した 緊急支援物資の輸送状況】



海上保安庁の巡視船「みうら」(深さ7.3m)が緊急支援物資(非常食)を積載し、仙台塩釜港雷神埠頭(耐震強化岸壁、水深9.0m)に入港。(平成23年3月19日) 出典：国土交通省港湾局
耐震強化岸壁について(平成24年3月)

【物流のバックアップ体制 (イメージ図)】



※港湾BCP：港湾における事業継続計画（Business Continuity Plan）。大規模災害等の不測の事態が発生した場合に、重要な業務を中断させない、または中断しても可能な限り短期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示したもの。酒田港では港湾BCPとして平成27年3月に「酒田港港湾機能継続計画」を策定している。

第4章

中長期的な空間利用のゾーニング

第4章 中長期的な空間利用のゾーニング

